

平成30年度第2回 習志野市地域支え合い推進協議会

【開催日時・場所】

平成30年10月19日（金） 午後2時から
習志野市庁舎1階会議室

【出席者】

（委員）※副会長の後、50音順
沢田副会長、市瀬委員、大川委員、木野委員、佐藤委員、杉山委員、鈴木委員、
西野委員、荷見委員、藤平委員、松丸委員

（市）

菅原健康福祉部長、中村健康福祉部主幹、岡澤高齢者支援課係長、
伊藤同課係長、和田同課副主査、本山同課副主査、
野苺家同課主任主事、植草同課主事、田久保同課主事

（第2層生活支援コーディネーター）

大川（谷津圏域）、田久保（秋津圏域）、井上（津田沼・鷺沼圏域）、
大門（代理）（屋敷圏域）、細野（東習志野圏域）

【傍聴人数】

0人

【次第】

- 1 開会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 健康福祉部長挨拶
- 4 議事
（1）総合事業における多様なサービスの進捗状況について
（2）高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる検討課題
（グループ討議）
- 5 その他
- 6 閉会

【配布資料】

資料1 総合事業における多様なサービスの進捗状況について
資料2 高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる検討課題
について

【1 開会】

沢田副会長の司会進行により、開会。

【2 会議録署名委員の指名】

会議録署名委員が藤平委員と木野委員に指名された。

【3 健康福祉部長から挨拶】

健康福祉部長から、委員に対し挨拶。

【4 議事】

(1) 総合事業における多様なサービスの進捗状況について

(岡澤高齢者支援課係長、伊藤同課係長より、資料1に基づいて説明)

<沢田副会長>

資料1の5ページに記載されている補助金交付申請相談をされた団体は、どういった経緯で補助金を知り、相談してきたのか。

<岡澤高齢者支援課係長>

高齢者相談センターからの情報提供のほか、広報に掲載したので、広報を見ての問合せがある。また、老人クラブの代表者が集まる会議で説明を行った。交付決定団体の太極拳実施団体は、老人クラブに所属している方が行っている団体である。

(2) 高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる検討課題

<岡澤高齢者支援課係長>

資料2は高齢者の日常生活の困りごととして、高齢者相談センターに寄せられた相談をまとめた。1~2ページは高齢者相談センター職員が直接支援した相談、3~4ページは他関係機関等に繋いだ相談となっており、特に、高齢者相談センター職員が直接対応した相談や対応できなかった相談は地域で足りていない資源の可能性もあるので、情報交換を行うと共に、ご意見をいただきたい。

グループ討議

Aグループ(座長は沢田副会長)

沢田副会長(社会福祉法人 豊立会 習志野市立東部デイサービスセンター)

市瀬委員(公益社団法人習志野市シルバー人材センター)

大川委員(居宅介護支援事業所あろんぐらいふ)

木野委員(市民協働団体運営)

佐藤委員(マイプランならしの訪問介護事業所)

松丸委員(習志野市秋津高齢者相談センター)

大門氏(屋敷圏域)

細野第2層生活支援コーディネーター(東習志野圏域)

岡澤高齢者支援課係長

和田同課副主査

本山同課副主査
植草同課主事

Bグループ（座長は杉山委員）

鈴木委員（市民協働団体運営）

杉山委員（習志野市社会福祉協議会（習志野市生活支援コーディネーター））

荷見委員（生活協同組合パルシステム千葉）

藤平委員（ならしの地域福祉事業所ぬくもり）

西野委員（民生委員児童委員）

大川第2層生活支援コーディネーター（谷津圏域）

田久保第2層生活支援コーディネーター（秋津圏域）

井上第2層生活支援コーディネーター（津田沼・鷺沼圏域）

中村健康福祉部主幹

伊藤高齢者支援課係長

野苺家同課主任主事

田久保同課主事

<沢田副会長>

それでは、話し合った内容の発表をお願いします。

<松丸委員>

主に受診同行とペットの餌等の買い物について話し合った。

受診同行については、急ぎの場合や、お金がなくてヘルパーを自費で利用できない方については、高齢者相談センター職員やケアマネジャーが行っているのが現状。お金があれば、ヘルパー利用できるほか、ボランティアもあるが、何かあった時のリスクもあるので、検討していく必要がある。

ペットの餌について、介護保険サービスでは本人の生活用品は買ってくるができるが、ペットの餌は難しい。生活の自立につながるのであれば買ってきてもいいのではないかという意見も出たが、介護保険サービスとサービス外の区別が難しくなるという意見もあった。また、シニアサポーターや NPO 法人を活用することも良いと思うが、自分で情報を得ないと利用できない。こういった情報は集まりづらいので、高齢者相談センターで集約すると良いのではないかという意見があった。

<荷見委員>

買い物支援と同行受診、ゴミ出しについて話し合った。

最初に買い物支援については、生協を含めた宅配は注文書の記入が必要だが、

記入もできなくなって、注文できなくなる場合がある。そういった場合、宅配業者と社会福祉協議会等と横の連携が大事だという話となった。また、灯油の配達については、どこまで灯油を運んでくれるかのマップを作成すると良いという意見があったが、一方で灯油を禁止している集合住宅もあるため、教えて良いかの情報共有をできるようにした方が良いという話もあった。

同行受診については、同行を求められるケースには、病院が要請する場合と本人が希望する場合がある。病院が要請した場合には、本人が必要と考えていない場合があり、ボランティアが病院についたときには受診が終了していたというケースや、病気の内容によっては、個人情報の問題、説明や対応がボランティアでは難しいケースがある。地域でできることとできないことを整理していく必要があるという話となった。

ゴミ出しについては、介護保険のヘルパーを活用できるが、ゴミ出しだけのためにヘルパーが行くのか、専門性が不必要なものなので、ボランティアグループを作ると良いのではないかという意見が出た。しかし、ご近所さんでボランティアグループを作って、活用いただけなかったというケースもあり、活用しやすくなるように工夫を考える必要があるという意見があった。

最後に、心に留まったのが、地域で困っている人で、自分で発信できる人は助けを求めることができるが、発信できない人もいるので、発信できない人の声をどう拾うのかということが課題であるということである。

<沢田副会長>

AグループとBグループで、お互いの議論を聞いていたわけではないが、同じ問題を議論していた。その中で、高齢者のQOLを上げる必要があるが、介護保険サービス内外ともうまく提供できないことや、ボランティアとしてやってあげたいがリスクがあり難しいという共通課題が認識できたと思う。また、発信できない方のニーズをいかに捉え、どう対応するかということは、私たちに課せられた重要な責務である。

私はこの業界に入って25年になる。当時は特別養護老人ホームの生活相談員をしていたが、当時の入所者のニーズと今日議論したニーズは、ほとんど変わらなかった。そのため、入所していても地域にいても、20年ほど前も現在も、同行受診や買い物などといったところに根本的なニーズがあるということを学ばせてもらった。

Aグループの話とBグループの話を聞いて、現在は高齢者相談センター、ケアマネジャー、シルバー人材センター、行政、地域で活動している方々、それぞれが自分のすべきことを行うということに支えられているところが大きく、なくしてはならないと思う。高齢者相談センターの松丸委員が、高齢者相談センター職員自ら対応したケースの特徴として、緊急性がある、家族の援助が望めない、お金がないことの3つを上げていました。このようなケースは、これ

からも変わらないと思われる。また、介護保険では対応できない困りごとは、シルバー人材センターなどの既存のサービスもあるが、最後には地域の互助として築き上げていく必要がある話だと思う。

第2層コーディネーターには、今日のテーマをぜひ第2層協議体において、話を深め、進化させていただきたい。最終的には、第2層生活支援コーディネーターを主軸とする合議体において、さらにニーズをつかみ、情報を共有し、互助の組織を築いていくことが必要だと考えている。

【6 その他】

＜岡澤高齢者支援課係長＞

第3回は来年2月8日金曜日午後2時からを予定している。

【7 閉会】